

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予報第3号

平成28年6月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 0.5%, 発病度 0.0)。なお、補植用置き苗においても発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成18~23は未確認,平成24年は9.1%,平成25~27年は未確認)。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、本田葉いもちの伝染源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 0%, 発病度が 0)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成18~23年は未確認,平成24年は14.3%,平成25~27年は未確認)。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、本田葉いもちの伝染源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。

- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は13.3%、25株当たり成虫数は0.2頭で、平年(16.1%、0.6頭)並の発生である。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、寄生株率が13.1%で、平年(67.3%、19.8%)並の発生である。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が26.7%、被害葉率が1.2%で、平年(11.1%、0.2%)に比べてやや高い。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に、薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生葉率が12.5%で、平年(21.5%、1.0%)に比べて高い。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫の発生は5月15日に初確認された(平年:5月17日,前年:5月14日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤の場合, 発生確認の10~15日後, 有機リン剤の場合, 35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 旧葉での発生圃場率が43.8%, 寄生葉率が4.1%で, 平年(40.8%, 6.6%)並の発生である。

(2) 5月26日発表の1か月予報では, 期間の前半は数日の周期で変わり, 平年に比べ曇りや雨の日が多く, 後半は, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年並)

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査においては, 勝浦町では平年(4月27日)より24日早い4月3日に, 上板町では平年(4月28日)より22日早い4月6日にチャバネアオカメムシを初誘殺した。

(2) 5月26日発表の1か月予報では, 期間の前半は数日の周期で変わり, 平年に比べ曇りや雨の日が多く, 後半は, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平年	2016年	2015年	2014年	2013年	平年
5.1	12	188	28	0	37	3	34	50	0	18
5.2	3	180	28	28	70	10	37	19	0	31
5.3	13	149	96	76	61	5	43	216	2	39
5.4	4	380	104	50	197	2	27	76	2	47
5.5	2	27	132	34	89	0	17	103	1	42
5.6		94	222	43	111		33	249	29	42
6.1		29	154	7	86		34	116	2	23

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
5.1	3	225	12	0	9	0	38	2	0	6	0	38	2	0	6
5.2	0	61	4	0	16	3	10	3	0	21	3	10	3	0	21
5.3	2	35	34	6	13	1	18	19	0	18	1	18	19	0	18
5.4	0	154	40	5	37	1	8	56	0	18	1	8	56	0	18
5.5	3	26	50	20	36	0	6	33	1	12	0	6	33	1	12
5.6		44	107	19	26		46	52	9	14		46	52	9	14
6.1		7	42	3	17		38	30	0	10		38	30	0	10

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林, 特にサクラやキリ等から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率が37.5%, 発病株率が17.8%で, 平年(14.2%, 2.2%)に比べて高い。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では, 期間の前半は数日の周期で変わり, 平年に比べ曇りや雨の日が多く, 後半は, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発してからでは防除効果が劣るので, 発生前からの予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が付着しにくいので, 展着剤を加え, 薬剤が確実に葉全体に付着するように散布する。
- (2) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長させれるので, 肥培管理を適切に行う。
- (3) 被害葉は伝染源となるので, 圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では, 発生圃場率は100%で, 平年(95.8%)並の発生であるが, 葉の被害度は2.3で平年(9.8)に比べて低めの発生である。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では, 期間の前半は数日の周期で変わり, 平年に比べ曇りや雨の日が多く, 後半は, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く, 特に5～6月が少雨の年に多発し, 残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%で、平年(58.6%)に比べやや高いが、葉の被害度は4.7で、平年(5.8)並の発生である。
- (2) 5月26日発表の1か月予報では、期間の前半は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。